

目 標	分 野	ビジョン	達成目標	令和5(2023)年度の取組結果	令和5(2023)年度の取組に対する評価と今後の課題
目標1 安全で安心して健やかに暮らせるまち	防災	災害に強く協働と支え合いによる防災体制が充実したまち	1 緊急交通路の整備推進	(都)大県本郷線、府道柏原駒ヶ谷千早阪線、市道上市法善寺線、(都)田辺旭ヶ丘線及び国分寺大橋において事業中となっています。国分寺大橋については、橋脚1箇所の修繕及び耐震補強を実施し、橋脚の修繕が完了しました。	国分寺大橋の橋脚については、すべて修繕及び耐震補強が完了しました。事業中の道路整備については、事業効果を発揮するため、引き続き、事業を進める必要があります。
			2 建築物の耐震化促進	耐震に関する意識啓発として、広報誌や市ホームページによる周知、個別相談会の開催、庁舎内でのパネル展示、旧耐震基準の木造住宅の所有者に対するDMの配布、窓口でのチラシ配布を行いました。	市民の耐震に関する意識は年々高まっていると感じられますが、目標達成に向けて、積極的なPRを継続的に行之い、耐震化を促進させる必要があります。
			3 浸水被害の防止	ストックマネジメント計画に基づき雨水ポンプ場の設備の改築・更新工事を継続して実施しました。	計画どおりの改築・更新工事を実施することができ、雨水ポンプ場の安定稼働・即時稼働することができました。今後も老朽化した雨水ポンプ場の設備の改築・更新工事を実施する必要があります
			4 危機管理体制の強化	大規模災害時における医薬品その他衛生資材、生活物資の調達、物流の確保に向け民間事業者様との間で連携協定の締結を行いました。	全国各地で発生する大規模災害の教訓から避難生活で必要となる物資や備蓄のあり方等について見直しや新たな考え方が求められている中にあつて、人々の生活様式の変容も考慮し、時代に即応した支援ができるよう連携協定締結に努めました。今後、更なる連携先の模索と既に連携が成立した事業所との間において運用面や手順等を確立するとともに訓練等を通じ精度を高める必要があります。
			5 地域防災力の強化	市内自主防災組織55組織による防災訓練が年度内に開催され、災害時における自助・共助意識の啓発やあらゆる災害リスクに対する防災意識の高揚に向け訓練支援を行うことができました。また、消防団活動におきましては、災害対応資機材積載車の配備や女性消防団員の増員、その他各種訓練の実施等で組織力の増強を図ることで地域防災力の強化を図りました。	大規模災害時における避難所運営や避難行動要支援者の避難支援等、地域防災の要となる自主防災組織への期待が高まる中、一方で組織の担い手不足による恒久的な維持に関する課題も発生しています。今後、市としては、組織の課題を共有しつつ、的確な支援を行うとともに、各事案や目指すべき災害対策について組織の十分な理解を得ることが課題となっています。また、消防団においても団員数の減少が顕在化しており、組織力強化に向け新規入団促進が課題となっています。
	防犯	市民を守る安全で安心なまち	1 防犯対策の強化	防犯カメラの新設・修繕及びLED防犯灯の新設について、町会へ補助制度の利用促進を行いました。また、警察、関係部署と連携し特殊詐欺等の犯罪防止啓発活動を行いました。	LED防犯灯については、町会等を取り巻く状況も踏まえ、修繕やその維持管理について、防犯対策事業の全体的な枠組みの中で検討する必要があります。また、増えつつある特殊詐欺に対しては、警察や関係団体とも連携しながら、引き続き注意喚起を行うとともに、より効果的な啓発活動を行っていく必要があります。
			2 消費者保護体制の強化	週4回の相談業務を継続実施しました。	週4回の相談業務が実施でき、今後も継続が必要であると考えています。
	交通安全	交通事故のないまち	1 交通安全対策の強化	関係機関と連携を図りながら、駅前キャンペーンや通学路における学童指導等、各小学校・こども園・保育所(園)・幼稚園で交通安全教室を実施しました。また、市ウェブサイト・SNS・広報誌等を活用し、交通安全啓発周知を行いました。	啓発活動を通じて、交通安全啓発に努めました。今後も、啓発回数を増やす等工夫しながら、啓発強化に努めていく必要があります。
			2 通学路の整備推進	柏原市交通安全総合整備計画に基づき、柏原小学校区で1箇所・国分小学校区で1箇所水路の暗渠化を実施しました。また、教育委員会・柏原警察署と連携し、各小学校より要望のありました通学路の危険箇所等の点検を実施し、改善可能な箇所につきましては、改善を行いました。	安全対策として、水路の暗渠化を2校区で実施し、歩行空間の確保に努めました。今後も整備計画に基づき、水路の暗渠化等により通学路の安全対策を進めていく必要があります。
	医療・保健	良質な地域医療と保健体制が確保されているまち	1 市立柏原病院の医療提供体制の充実	令和5年度は新型コロナウイルス感染症の感染症上の位置づけが令和5年5月8日以降5類に移行したことに伴い、新型コロナウイルス感染症患者用に確保していた病床を縮小し、休止していた地域包括ケア病棟を段階的に再開しました。	令和5年度は新型コロナウイルス感染症患者に対応しながら平時の医療提供体制に戻す取り組みを進めました。今後も引き続き当院の機能を活用し、地域の基幹病院として医療提供体制の充実に努めてまいります。
			2 市立柏原病院の救急医療体制の強化	令和5年度は消防本部と連携しながら、救急搬送の受入体制の強化に取り組みました。	令和5年度の救急搬送受入件数は増加しており、基幹病院として地域の医療ニーズに応えることができています。今後も引き続き救急医療の強化に取り組んでまいりたいと考えています。
			3 市立柏原病院の地域ニーズに対応できる入院体制の強化	令和5年度は令和5年6月から地域包括ケア病棟を段階的に再開しており、令和5年12月には新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の体制に戻っています。	新型コロナウイルス感染症患者用に確保していた病床を縮小し、休止していた地域包括ケア病棟を段階的に再開した結果、令和5年度の延入院患者数は前年度の40,450人から8,058人増加の48,508人となっております。今後は近隣の医療機関との関係強化に努めながら、地域の基幹病院として入院に対する医療ニーズに応えることが出来るよう入院体制の強化に努めてまいります。
			4 定期接種の啓発等を通じた感染症のまん延防止	A類定期接種を個別接種で実施し、特に令和5年4月から定期接種化されました子宮頸がん9価ワクチンの周知や令和6年度が終期となる子宮頸がんワクチンキャッチアップ接種および風しん第5期定期接種の促進に努めました。また、B類定期接種では特に高齢者インフルエンザワクチン接種の促進に努めました。	新型コロナウイルス感染症が令和5年5月に感染症法上の5類相当に位置付けられたことから各予防接種の接種率も一定上昇しました。しかしながら、子宮頸がんワクチンキャッチアップ接種や風しん第5期定期接種は思うように伸びなかったため、いずれも最終年度である令和6年度にさらなる促進施策が必要です。
	健康づくり	生涯を通じて心身が健康で元気に暮らせるまち	1 疾病予防、重症化予防の推進	特定健康診査の受診率向上に向けて、未受診者への受診勧奨通知を6月と9月に2回実施しました。また、通院中の対象者には受診勧奨ちらしを用いて、医療機関から受診勧奨を実施しました。人間ドックについても受診勧奨を継続するとともに、各種がん検診の受診勧奨を実施しました。がん検診の受診率向上に向けた取り組みでは、これまでの保育付き検診や日曜検診、ウェブ予約の導入に加え、国民健康保険加入者や協会けんぽ加入者の特定健診との同時受診ができる環境を整えてまいりましたが、令和5年度は協会けんぽ加入者の特定健診との同時受診環境の更なる改善に取り組みました。	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、若干ではありますが受診率の向上が見られました。しかしながら、目標値からは大きく離れています。がん検診については、引き続き各種健診との同時実施の機会の拡充など受診環境を整備するとともに、新たに国で策定された第4期がん対策推進基本計画に基づき示される各種メニューにも積極的に取り組む必要があります。特定健康診査の受診率向上に向けては、受診勧奨通知の2回実施等の取組を継続するとともに、受診率が低い40代・50代の受診率向上に向けた取組を推進する必要があります。また、通院中の対象者にはかかりつけ医からの受診勧奨が効果的であり、今後も取組を継続する必要があります。
			2 主体的な健康づくり活動の充実	健康づくりプロジェクトチームでの取り組みとして、産学官協働による耳活フィットネスの開催や健康づくりロゴマークの作成を実施しました。また、セレクト・ウェルネスでは新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、コロナ禍前の体制に戻して開催しました。	新たな取り組みである耳活フィットネスや健康づくりロゴマークを活用し、引き続き主体的な健康づくり活動の充実に努めます。セレクト・ウェルネスにつきましては教室の見直しを行ったことで参加者数の減少が若干見られました。今後につきましても、公共施設再編整備なども控えていることから、事業の在り方について見直しが必要であると考えています。。
			3 自殺防止体制の強化	本市教職員及び関西女子短期大学の養護教諭養成コースの学生を対象にゲートキーパー養成講座を実施するとともに、第2期柏原市自殺対策計画を策定しました。	ゲートキーパー養成講座の修了者数は前実に増えており、継続して実施するとともに、対象者を市職員や介護従事者などにも拡大してまいります。また、第2期柏原市自殺対策計画に基づき、総合的に自殺を防止できる体制づくりに努めます。
	地域福祉	「地域共生社会」を実現するまち	1 地域福祉への主体的な住民参加	「子どもや高齢者の集まりの場」や、「地域交流サロン」等を開催する団体やボランティアに対して支援を行いました。	活動に参加している住民の人数は、コロナ禍以前の参加人数と比べて減少しています。地域ボランティア参加者の高齢化により、ボランティア参加の人数が減少していることが課題となっています。
			2 生活困窮者の自立に向けた着実な支援	生活困窮者の個々の課題に対応するため、支援プランの作成と支援会議等による包括的な支援を行うとともに、引きこもりなど社会的な孤独・孤立の課題に対し、社会居場所づくりの推進に取り組む団体の支援を行いました。 ・新規相談件数 232件 (対前年度181件減) ・支援プラン作成件数 55件 (対前年度34件減) ・就労支援実施件数 43件 (対前年度24件減)	経済的に困窮する方の新規相談件数は減少傾向にありますが、相談の中には引きこもり等家庭内に隠れていた課題が明らかになったケースもあり、社会全体として孤独・孤立化は進んでいることが伺えるため、生活困窮世帯が抱える複雑・複合的な課題への対応が今後の課題となります。

目 標	分 野	ビジョン	達成目標	令和5(2023)年度の取組結果	令和5(2023)年度の取組に対する評価と今後の課題
	子育て支援	誰もが安心して笑顔で子どもを産み育てられるまち	1 妊娠期から子育て期における切れ目ない支援の充実	妊娠期から子育て期における切れ目ない支援を実施するため、妊娠届出時に全数面談を実施のうえ、支援プランを作成し、その後再度妊婦全員に妊娠8か月面談を実施しました。出産後は、出生届出時に出生時面談を実施し、生後2か月頃に乳児全戸訪問（こんにちは赤ちゃん訪問）を行い、伴走型相談支援として、妊婦および子育て世帯への継続的な支援を実施し、支援を要する家庭には継続的な訪問や電話などの個別支援を行いました。 また、「すくすく訪問事業」は、子育て支援センター「スキップKIDS」を基幹としつつ、実際の訪問を各地域に所在する公立認定こども園の保育教諭が実施したことで、より地域に密着した訪問が実現し、寄り添った支援を行うことができました。	「妊娠・出産応援交付金事業」の開始に伴い、伴走型相談支援として妊娠届出時と妊娠8か月時に全数面談を行っており、支援を要する妊婦には継続的な支援を行い、妊婦への相談支援件数は増加しています。 今後、出生時面談や乳児全戸訪問（こんにちは赤ちゃん訪問）などの機会を活用し、安心して出産・子育てができるよう妊娠期からの切れ目ない相談体制をの充実が必要であります。 すくすく訪問事業については、実際に住む地域にある認定こども園の保育教諭が訪問するということで、以前よりも受け入れやすい状況になり、訪問率が上昇していることから、今後も地域に密着した訪問を継続して実施してまいります。切れ目のない支援を継続できるよう、関係機関とも連携を図りながら実施します。
			2 母子保健の充実	乳幼児健診において、身体及び精神発達の診察及び育児に関する相談を行い、未受診児に対しても訪問等により現認確認を行いました。3歳6か月児健診ではスポットビジョンによる目の屈折検査を導入し、健診の充実を図りました。 また、両親教室では赤ちゃんを迎える準備として、妊娠・分娩・育児について理解が深まるよう実施し、赤ちゃんの抱き方やオムツ交換、沐浴などの体験については、父親の参加もしやすいよう日曜日にも開催しました。 離乳食講習会では、YouTubeで離乳食の作り方を配信し、自宅で気軽に確認し、離乳食が作れるようにしました。	乳幼児健診の受診率は横ばいですが、健診内容の充実を図り、多くの方が受診できている体制であります。また、未受診児に対しては訪問等により全数現認確認できました。 今後、新たに5歳児健診の導入など就学までの健診体制の充実を図る必要があると考えています。 両親教室は、年12回開催しており、内3回は日曜日に開催し、参加者数が増加しています。今後も参加者数が増加するよう内容の充実を図り、予約・参加しやすい環境を整えていく必要があります。
			3 幼児期の教育・保育環境の充実	令和6年度の自園調理開始に向け、令和3年度の設計に基づき、「こくぶこども園」及び「たまでこども園」の調理室改修工事を実施しました。	施設を運営しながらの工事となりましたが、前年度と同様に調理室の改修工事中も給食の提供を止めることなく、工事を完了することができました。これにより、すべての公立保育施設の調理室改修工事が完了し、令和6年度から自園調理を開始する準備が整いました。次年度からの自園調理開始にあたり、各園の配膳方法の確認や調理業者との連携強化に加え、自園調理の強みを生かした食育の推進等にも取組んでいく必要があると考えています。
			4 子育て中も安心して働ける環境の充実	教育・保育施設では、保育ニーズの変化に応じ、保育士の配置や確保等に公立・民間施設で柔軟に対応できるよう、民間保育園等の保育士確保の取組に対する助成を継続して実施するなど、引続き入所枠の確保に取り組みしました。 放課後児童会では、児童会室の老朽化や今後の入会児童数の増加に対応できるよう、子どもの安全を第一に考えながら、堅下北小学校放課後児童会の教室移転等の環境整備を行いました。また、オンラインプログラムの導入により放課後児童会における保育を充実させました。	民間保育園の保育士確保の取組に対する助成制度を継続する等、公民合わせて保育士確保に努めるとともに、民間施設の協力等により、低年齢児の入所枠を一定数拡大することで、年度当初の待機児童ゼロを達成することができました。一方で、国の定義による待機児童数はゼロとなったものの、全ての保育ニーズに応えることができなかったため、今後の保育ニーズの動向を踏まえ、引続き入所枠の確保に取り組んでいく必要があります。 老朽化著しい児童会施設の環境整備のため、堅下北小学校放課後児童会の児童会室を校舎内教室へ移転しました。また、企業版ふるさと納税を活用して、オンラインプログラムを導入し、児童会同士を繋いだ新たな遊びを提案しました。今後も希望する児童を全て受け入れることができるよう環境整備を進めるとともに、放課後を豊かなものにするためのプログラムを積極的に実施していきます。
			5 配慮が必要な子どもと子育て家庭への支援の充実	養育支援訪問事業の実施にあたり、関係機関と月1回会議を開催し、情報共有及びケース検討を行い、訪問等の支援が実施できました。また、児童虐待に関する相談に適切に対応できるよう、職員の研修参加を通じてスキルアップを図りました。	今後も、職員のスキルアップを図り、相談件数及び相談内容に適切な対応ができるよう体制を整える必要があります。
	障害者福祉	インクルーシブな社会が実現したまち	1 障害のある子どもへのライフステージに応じた切れ目ない支援の強化	「ペアレントプログラム」全4回、「ペアレントトレーニング」全4回の口座を開催し計7名の参加がありました。障害者児への相談体制を構築し障害福祉サービスの利用を促進しました。	一定、支援の充実が図れました。引き続き、効率・効果を検証し継続して進めていく必要があります。
			2 地域での自立した生活に向けた支援の充実	相談支援体制の充実を図り、障害福祉サービス等の利用を促進しました。サービスを利用しながら施設から地域生活へと移行された実績もありました。	一定、支援の充実が図れました。引き続き、効率・効果を検証し継続して進めていく必要があります。
			3 就労や社会参加活動への支援の充実	障害者スポーツの普及啓発のため体験会などを実施し、大阪府障害者スポーツ大会には市内から1名参加されました。障害者就労に関しては自立支援協議会の「日中就労部会」を通じて事業所マップを作製したほか、「障害者雇用を考える集い」において関係機関と連携し、セミナーと個別面接会を実施し、障害者の一般雇用を支援しました。	一定、支援の充実が図れました。引き続き、効率・効果を検証し継続して進めていく必要があります。
			4 安全・安心な生活環境づくりの促進	重度障害者が住み慣れた自宅で安心、安全に生活できるようバリアフリー化に係る助成事業の実施・周知を継続し、1名の利用がありました。 避難行動要支援者の生命又は人体を災害から保護するために避難行動要支援者名簿の管理を行いました。	一定、支援の充実が図れました。引き続き、効率・効果を検証し継続して進めていく必要があります。
			5 障害を理由とする差別の解消及び権利擁護の強化	柏原市権利擁護サポートセンターにおいて成年後見制度の相談支援体制を確保しました。また柏原市障害者虐待防止センターにおいても虐待防止の相談支援や対応への体制を併せて確保しました。	一定、支援の充実が図れました。引き続き、効率・効果を検証し継続して進めていく必要があります。
	高齢者福祉	高齢者が生きがいを持って安心して暮らせるまち	1 介護予防活動の充実	地域サロン(住民主体の通いの場)活動継続の動機付けができるよう、地域包括支援センターとの連携を図り、介護予防活動を行った方への景品贈呈、地域サロンへの運動指導士・歯科衛生士・管理栄養士の派遣の案内を行い、地域サロンへの活動参加の一助となりました。	地域サロンへの参加継続の動機付けを図ることができました。今後も高齢者がいつまでも住み慣れた環境で生活するための支援を継続して実施する必要があります。
			2 認知症になっても安心して生活ができる環境の充実	新型コロナウイルス感染感染予防策を講じながら、地域包括支援センターと連携し、市内団体等への認知症サポーター養成講座を開催しました。	認知症サポーター養成講座の実施を通じて、認知症高齢者を支える環境作りの構築ができました。今後も認知症サポーターの普及を図り、認知症になっても安心して生活ができる環境を確立してまいります。
			3 介護保険サービスの適切な運営	介護認定の申請受付時に、どういう支援を必要としているか、生活でどういった困りごとがあるのかを聞き取り、内容に応じて適切な支援ができるよう案内し、認定申請の必要性の確認を行いました。	窓口相談での対応によって、介護サービスが今すぐ必要ではないということ、介護認定を減少させる一定の効果があつたと思われます。ただし、介護予防事業等を案内するなど、適切な支援に繋げながら継続して認定の必要性を確認していく必要があると考えています。

目 標	分 野	ビジョン	達成目標	令和5(2023)年度の取組結果	令和5(2023)年度の取組に対する評価と今後の課題
目 標 2 地 域 資 源 を 活 か し た 魅 力 あ ふ れ る ま ち	自然環境	市民が憩い親しめる水と緑の良好な自然環境のまち	1 水質改善への継続的な取組	令和5年度は、環境フェアを実施し、水質改善への取組を促す啓発を行いました。また、水辺の自然教室は、川の中の生物観察を通して、水質環境について関心・知識を持つとともに、水質維持・浄化に対する意識向上に努めました。	水質改善については、市民の意識向上が不可欠で、継続的に取り組む必要があると考えますことから効率的でかつ有効的な企画を考え、実施していくことが必要と考えます。
			2 市民が親しめる水辺環境の保全	令和5年度は、クリーンキャンペーンを実施し、河川敷のごみ拾いを通じて水辺環境の保全への意識向上を図りました。	令和5年度は、参加者数もコロナ禍の前に戻りつつあり、開催回数も拡充させたが、市民の意識向上と高揚が重要なことから引き続き、広報活動が必要であると考えます。
			3 豊かな自然を感じる場の保全	高尾山創造の森について、大阪府との協働事業により、森林の生育管理や、遊歩道の維持管理を実施し、市民に親しんでいたけるよう努めました。	継続的に、高尾山創造の森の管理を進めていく必要があります。
			4 土地利用に関する適切な指導	無許可で埋立て等が実施されていないかパトロールを実施しました。	無許可埋立てが発生すると、是正には長期間を要するため、未然防止のためのパトロール体制の強化が必要と考えています。
			5 森林環境の整備	森林環境譲与税を活用した森林整備に関する検討委員会や市民参加の森林循環フォーラムを実施し、ボランティアによる森林の保全や木材の利用促進に関する事業を実施しました。	森林保全検討会、森林循環フォーラムを通じ、森林所有者、ボランティア団体、企業、市民がより多く森林保全に参加できるような仕組みづくりを進める必要があります。
	生活環境	資源の循環利用が進み良好な生活環境のまち	1 ごみの減量化及びリサイクル活動の充実	廃棄物の減量に向けて、より効果的な方法を検索しつつ、マイバックキャンペーンを継続実施のほか、資源の循環利用の取り組みを推進するため、町会等の団体が地域のリサイクル活動の活性化のため実施している集団回収に対して交付している助成金について1キロあたり4.5円から5円に単価の見直しを行いました。	リサイクルの促進と地域活動の活性化を促すため助成金の単価を見直しを行ったことで、リサイクル促進団体が1団体増加し、取組を進めることができたと考えています。
			2 不法投棄の防止	市職員のパトロール及び啓発看板の設置により不法投棄抑制に努めました。	不法投棄されやすい場所への啓発看板等の設置等により、さらなる不法投棄の抑止力強化に努める必要があると考えています。
			3 周囲に悪影響を与える管理不全空き家の減少	空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき、特定空家等1件について行政代執行を実施しました。	周囲に悪影響を及ぼす危険性のある空家等を少しでも減らすよう、空家等対策計画に基づき、対策を進める必要があります。
	環境保全	市民とともに良好で快適な環境を保全しているまち	1 公害防止対策の継続的な取組	市域の大気汚染の状況把握・監視のため、常時監視測定を実施しました。	市域の大気汚染の状況把握・監視のため、今後も継続して測定を実施していくことで、良好で快適な環境保全に努める必要があります。
			2 温室効果ガスの削減	昨年度に引き続き、ロハスパーク大阪柏原にて省エネ診断・啓発パネル展示を実施しました。その他広報誌などで啓発も実施しました。	令和5年度は、出店の機会にも恵まれ、イベントで啓発を実施することができました。今後もこのような機会があれば出展を行い、啓発する機会を拡充する必要があると考えております。
			3 環境教育の充実	市職員で市内小学校にて児童を対象にごみ減量3R・環境問題、食品ロス等についての講座・実演等の環境教育を実施しました。また、動物愛護の精神の視点から命の尊さや大切さを通じて、人を思う気持ちを育むための特別版の環境教育を講師を招き、実施しました。	通常が3回と特別会が2回の計5回の開催であったが、地球温暖化をはじめ、さまざまな環境問題が深刻化する中で、環境教育の重要性が高まっていることから引き続き、市内小学校に対して継続して実施の提案が必要であると考えております。
			4 地域における環境美化の強化	各町会に1名任命された環境美化推進員を中心にごみのポイ捨て・犬のふんの処理の啓発等を実施していただきました。また、啓発ポスターの配布やボランティア袋を配布し、環境美化活動にも取り組んでいただき、街の美化向上にも取り組みました。	昨年より実施回数は、増加しました。引き続き実施回数の増加に向けて取組を進める必要があると考えております。
	農業	担い手が育成され、特色ある農業が盛んなまち	1 地域農業の活性化	ぶどうをはじめとした農産物、加工品のPR販売をJA大阪中河内・大阪府と協力して実施しました。また、大阪エコ農産物認証制度を推進しました。	引き続き、新たなPR方法の実施に努めるとともに大阪エコ農産物認証制度についても引き続き推進する必要があると考えています。
			2 農地の保全と遊休地の活用	農地パトロール及び農地の利用に関する相談受付を継続して実施しました。また、多面的機能推進支払事業を実施（1地区）しました。	農地パトロールにより、農地の管理状況の改善を促しました。また、多面的機能支払事業により、地域での農空間の保全活動が行われた。今後も継続して農地パトロールを実施するとともに、農地の利用に関する相談受付を継続して実施していく必要があります。
			3 有害鳥獣被害の減少	有害鳥獣の捕獲・追い払い事業を実施しました。また、農作物被害対策として有害鳥獣侵入防止柵設置に関する補助の実施に向けて取り組みました。	引き続き有害鳥獣被害対策に取り組んでいく必要があります。
			4 農業後継者の確保	農業の中心的役割を担う人材を育成するため、柏原市4Hクラブの活動に対し大阪中河内農業協同組合、大阪府中部農と緑の総合事務所の指導のもと、農産物の栽培技術や経営に関する学習会及び研修会などの実施を支援しました。また、ぶどう担い手塾を開催し農業の担い手を育成しました。	新規就農者への支援については、個別の相談への対応により、支援を継続していく必要があります。また、ぶどう担い手塾についても、ぶどう栽培の担い手を育成するために、内容と改善を行いながら実施していく必要があります。
	商工業	元気な商工業で、にぎわいあふれるまち	1 市内事業所等の活性化	原油価格・物価高騰等の影響を受けた消費者や事業者支援を目的に、地域経済の活性化や消費喚起を行ったほか、キャッシュレスの推進を図りました。 第2弾 令和5年7月18日（火）～31日（月） 第3弾 令和5年12月4日（月）～17日（日） 決算額 247,821,395円 キャンペーンに伴うポイント還元額 116,742,565円 また、まちひとしごとネットの活用や新規出店促進事業などとあわせて、創業相談にも取り組みました。	原油価格・物価高騰等の影響を受けた消費者や事業者への支援を行うことで、飲食店や商店など地域経済の活性化を進め幅広く支援ができたと考えます。 今後は、まちひとしごとネットの活用や新規出店促進事業などと併せて、創業相談にも取り組むとともに、引き続き原油価格・物価高騰等の影響を受けている事業者等支援の双方を同時展開していくことが必要と考えています。
			2 商店街等の集客力向上	柏原市商工会と集客力の向上に向けた空き店舗の利活用について協議・研究を行い、令和6年度実施に向けた準備を行いました。	令和5年度内での集客力の向上に向けた空き店舗の利活用の事業については、未実施となりましたが、空き店舗ツアーの実施に向けた仕組みづくり等について柏原市商工会と協議・研究を行い令和6年度実施に向けた準備を完了させました。今後は実施のスケジュールや協力いただく不動産関連の事業者の公募等を行う必要があります。

目 標	分 野	ビジョン	達成目標	令和5(2023)年度の取組結果	令和5(2023)年度の取組に対する評価と今後の課題
目標3 利便性と快適性の高い住みよいまち	観光	地域資源を活かした観光による活気にぎわいのあるまち	1 交流人口・関係人口の増加とおもてなし環境の整備	亀の瀬トンネル内プロジェクト『日本遺産「龍田古道・亀の瀬」～光の旅路』を実施しました。 また、河川空間オープン化に向けて民間事業者による河川敷を活用した社会実験を実施しました。 葛城修験では修行体験と共に参加者によるクリーンウォークを行い、日本遺産地域の環境美化に努めました。 プロジェクトの観覧者数 20,267人（3月末まで） 河川敷で実施した社会実験 7回（その他雨天中止4回） 葛城修験クリーンウォーク 参加者19名	プロジェクトの観覧者数は当初の目標値である2万人を達成し、日本遺産「龍田古道・亀の瀬」の知名度向上と集客への寄与が認められたと思われます。「市民観覧デー」のイベントを実施し、送迎バスを運行することで交通手段が限られる高齢者等にも亀の瀬に来ていただくことで、柏原市民にも「わがまち」の日本遺産を知っていただく機会を設けました。今後は来訪者の市域での滞在時間を延ばし、直接的な経済効果を得られるような仕組み作りが必要であると考えます。
			2 観光資源に関する情報発信の充実	日本遺産フェスティバルin桑都（東京都八王子市）に参加。日本遺産PR商品である「亀の甲羅（カメノコーラ）」を販売するなど、情報発信を行いました。メイン会場への来場者 41,000人 カメノコーラ120本販売 またインテックス大阪で開催されたイベント「ツーリズムEXPOジャパン」に参加し、日本遺産に関するパンフレットの配架やモニターでの動画再生、クイズラリーへの参画などで業界関係者へのPRを推進しました。	「亀の甲羅」の売上は引き続き好調であり、今後も継続販売をしたいと思いますが、容器がガラス瓶であることから販売方法や販売場所に制約があるため、製品のペットボトル化を検討します。
			3 広域的な地域魅力の向上	信貴サイクルロゲイニングを実施。八尾市・平群町・三郷町など広域のスポットを自転車で巡り、地域の魅力発信に寄与しました。 葛城修験では構成文化財や風景等を対象としたフォトコンテストを実施し、広域のスポットを周遊してもらう催しを行いました。 サイクルロゲイニング参加者 24チーム 57名 フォトコンテスト 投稿写真総数約1,700点	日本遺産「龍田古道・亀の瀬」推進協議会や葛城修験日本遺産活用推進協議会の組織を活かし、今後も連携イベントによって広域のかつ魅力的な取組ができるよう企画を進める必要があると考えます。
	歴史・文化	歴史・文化の保全と活用による魅力あるまち	1 文化財の保存、整備、活用	史跡清浄泉の斜面保護対策工事を7月に完了し、近隣家屋への影響を判定するため事後調査を実施しました。 また、今町地区に所在する寺田家住宅前の説明板を更新しました。	適切に工事が施工され、近隣家屋に影響がないことを確認しました。 また、各史跡等の説明板については、汚れや破損などがあり、今後も順次更新を行う必要があります。
			2 文化財に関する情報発信と普及啓発	オンラインガイドツアーを8回実施し、史跡や資料館の資料等を紹介しました。また、史跡高井田横穴特別公開についても5月と10月に実施しました。 刊行物については、昨年に引き続き『柏原の歴史3-飛鳥・奈良時代-』を刊行しました。	オンラインガイドツアーは予定回数を実施することができましたが、アクセス件数を増やすためにはより一層のPRが必要です。また、横穴特別公開は、年間273人の方に参加いただきましたが、さらなるPRが必要です。
	土地利用	計画的な土地利用による利便性が高く良好な住環境のまち	1 都市計画による適切な土地利用 2 開発者との協議による良好な住環境の形成	令和5年5月と令和5年11月に都市計画審議会を開催しました。国分東条地区地区計画の変更及び生産緑地地区の変更を行いました。 柏原市開発指導要綱に基づき開発者と協議を行いました。	柏原市都市計画マスタープランに基づき、事業推進を図る必要があります。 開発行為等を行う際、良好な住環境形成について、開発者と十分に協議することが出来ました。柏原市が求める住みよいまちの形成に向け、開発者に理解と協力を頂けるよう、協議時においては十分な説明が必要と考えられます。
目標3 利便性と快適性の高い住みよいまち	公園・緑地	市民との協働による緑あふれる自然環境のまち	1 緑あふれる公園、緑地の維持、整備	巡視、点検を実施し、老朽化した施設の更新を行いました。	11公園の車止めとフェンスの改修を行ったことにより、成果指標には該当しませんが、一定の成果はあったと考えます。多数の施設の老朽化が進んでいることから、効率的な更新を進める必要があり財源を確保していく必要があります。
			2 市民協働による緑化活動の推進	町会などの団体に呼び掛けを行い、参加を促しました。	玉手山公園で花苗植付のボランティアを募集しましたが、1名のみの参加でした。花苗植付のボランティア募集についてはどうしていくか検討する必要があります。また、緑地の維持管理等に関する協定を締結している既存の団体からは、高齢化により活動が難しくなってきたとの申し出が多くあることから、対応を考える必要があります。
			3 災害に備えた公園の利活用	候補地の公園の具体的な設置箇所等の検討を行いました。	予算を確保していく必要があります。
	上水道	安心な水を安定して使えるまち	1 水道システムの強靱化	約2.6kmの管路整備を実施しました。	予定していた工事は完成し、2025年の達成目標に向けて計画は順調に進捗しています。
			2 安定的な事業運営	主に柏原地区における水道管路（約144km、約16400戸）の調査点検を実施しました。	有収率はほぼ横ばいとなっています。今後も調査点検を継続し、適切な施設の維持管理を行います。
	下水道	衛生的で快適な生活環境が確保されているまち	1 生活排水の適正な処理	公共下水道の整備工事を実施し、人口普及率が88.9%となりました。また、市町村設置型の公共浄化槽を3基設置しました。	公共下水道整備は計画どおり実施し、目標を達成することができました。引き続き、公共下水道第8次五箇年計画に基づき、事業を進める必要があります。 公共浄化槽の設置は目標を達成できませんでしたが、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に寄与することはできました。公共浄化槽の設置基数を増加させるためには、継続して周知・啓発活動などに取り組む必要があります。
	道路	快適で利便性・安全性の高い道路が整備されているまち	1 快適な道路の整備	(都)大泉本郷線、府道柏原駒ヶ谷千早赤阪線、市道上市法善寺線、(都)田辺旭ヶ丘線において事業を行っています。	事業中の道路整備については、事業効果を発揮するため、引き続き、事業を進める必要があります。
			2 幹線道路ネットワークの整備	(都)大泉本郷線、府道柏原駒ヶ谷千早赤阪線、市道上市法善寺線、(都)田辺旭ヶ丘線において事業を行っています。 また、国道25号バイパスやスマートインターチェンジの実現に向け検討を行っています。	事業中の道路整備については、事業効果を発揮するため、引き続き、事業を進める必要があります。 構想中の事業につきまいては、早期事業化を目指し、取り組む必要があります。
			3 道路施設等の適切な維持管理	パトロールを強化し、迅速な対応に努めました。	適切な維持管理のため、より一層のパトロールの強化、効率化を図り、迅速な対応に努める必要があります。
			4 市民協働による道路美化活動の推進	地域の方に呼び掛けを行い、参加を促しました。また連携して引き続き継続していけるよう取り組みました。	高齢化などにより、継続して行うことが困難という地区もあり、拡充から継続して行っていけるような取組への移行の時期と考えております。
	公共交通	広く市民が利用可能な公共交通ネットワークのあるまち	1 市民生活を支える公共交通システムの構築	公共交通に対する住民アンケート調査(3,000部配布)を実施し、公共交通に対する市民のニーズ把握に努めました。	公共交通の利用状況等の既存データやアンケート調査の結果から、新たな交通モード導入の社会実験を含め、交通空白地の解消に向けた取組を検討する必要性があると考えます。
			2 市内循環バスの効果的な運行	市内循環バス利用者アンケート調査(634部配布)を実施し、市内循環バス利用者のニーズ把握に努めました。	市内循環バスの利用状況等の既存データや利用者アンケート調査の結果から、市内循環バスのより効果的な運行に向けて、ルート等見直しを含めた再編を検討する必要性があると考えます。
			3 鉄道駅のバリアフリー化	令和4年度に近鉄法善寺駅、堅下駅のバリアフリー化工事が完成しました。	近鉄法善寺駅、堅下駅のバリアフリー化工事が完成し、誰もが安全・安心・快適に利用できるようになりました。

目 標	分 野	ビジョン	達成目標	令和5(2023)年度の取組結果	令和5(2023)年度の取組に対する評価と今後の課題
目標4 やさしさと思いやりを育むまち	学校教育	「生きる力」を持った子どもが育成されるまち	1 幼小中一貫教育の実施	幼小中一貫教育コーディネーター会議を開催し、各校の取組みについて共有しました。また、わくわくスタート担当者会を開催し、各校での取組み内容を集約して、共有しました。こども施設課と連携し、就学前施設と小学校と（架け橋期）の交流活動を実施しました。	幼小中一貫教育推進教員を各中学校区に配置することにより、幼小中の連携が進み、子どもたちは校種間の段差を乗り越えやすくなっています。幼小連携では、子どもたちの交流だけでなく、相互に実践を見せ合う教員同士の交流の場も増やしていきます。小中連携では、教育課程を含めた指導内容の系統性を図り、校種間の段差をゆるやかにするとともに、個に応じたきめ細やかな学習指導、生徒指導、進路指導等を行う教職員の専門性が発揮されるよう、連携をより一層推進していきます。
			2 学力・体力の向上	「第3期かしわらっ子はぐくみプラン（柏原市学力向上計画）」に基づき、学力向上推進委員会を年間10回実施し、「思考力・判断力・表現力」の育成に向けた授業づくりに向けた、学校での取組みを交流し、研究を進めました。専門的な技術指導力を備えた外部の指導者を部活動補助指導員として各中学校に配置することにより、専門の競技とは異なる部を顧問する教員を支援し、生徒への指導を充実させました。	確かな学力の育成をめざし、引き続き教員の授業力を向上させる研修の充実が必要であると考えています。教員自身が、主体的に学ぶように、他市町村も含めた学校公開への参加を促していきます。体力については、全国と比べ、中学生男女の平均値がそれぞれ上回りましたが、小学生男女は下回る結果となりました。体育の授業を見直し、休み時間等を使って楽しく体を動かす遊びを取り入れるなど、楽しみながら運動経験を増やす工夫が必要になります。
			3 教育支援の充実	スクールカウンセラーを3名配置することにより、相談体制を整え、悩みや不安を抱えている児童・生徒及び保護者を支援しました。また、スクールソーシャルワーカーを、今年度から、市内全ての中学校区に配置することにより、相談体制を整え、悩みや不安を抱えている児童・生徒及び保護者を支援しました。	スクールソーシャルワーカーを全ての中学校区に配置したことに伴い、専門機関との連携が一層進みました。家庭環境を含む様々な課題を抱えた子どもたちへの支援については、学校と福祉との連携が今後より一層必要になっていきます。今後も引き続き、スクールカウンセラーとあわせ有効活用し、支援体制の強化に努めていく必要があります。
			4 適正規模・適正配置の検討	次期基本方針策定に向けて、児童・生徒数調査を実施し、推移予測を行いました。また先進市を視察し、次期審議会にむけて、教育委員会内で今後の方向性及び計画について検討しました。	令和8年度の審議会実施にむけて、方向性やスケジュールを検討できました。令和6年度も他市視察とともに施設面での検討、維持費試算、教育委員会以外の関連部署との連携を図っていきます。
			5 経済的事情により困窮している児童、生徒への適切な支援	途中申請を随時受付することで、必要な時に必要な支援を提供できました。令和5年度も就学援助制度・支援教育就学奨励費制度を継続し、適切な支援を行うことができました。	申請者に対しては、適切に対応することができました。全体の児童生徒数に対する申請率が低下しているため、申請方法の検討が必要であると考えています。
			6 快適な教育環境の整備	トイレの洋式化については、堅下小学校、旭ヶ丘小学校の改修工事が完了し、堅下南小学校、堅下南中学校の設計業務を実施しました。また、学校体育館への空調設備の整備については、堅上中学校、堅下南中学校への設置工事と柏原、堅下、国分、玉手、旭ヶ丘の小学校5校の設計業務を実施しました。	トイレの洋式化については、改修工事、設計業務ともに計画どおりに実施でき、学校トイレの環境改善と同時に洋式化率を上げることができました。また、学校体育館への空調設備の整備についても、設置工事と設計業務を計画どおりに実施しました。今後もトイレの洋式化工事で学校体育館への空調設備の設置を進めていく必要があります。
	生涯学習	生涯に渡る学びの機会があり、やさしさや思いやりを育むまち	1 多様な学びの機会の充実	公民館では、昨年度のアンケートの結果を参考に講座を開催したことで、参加人数は増加しましたが、講座により規定人数に満たず開講できない講座もありました。自然体験学習施設では、子どもを中心とした自然体験事業を行い、親子を対象としたアウトドア事業を展開しました。また、市民文化会館においては、小ホールの調光操作卓の更新を行いました。	公民館では講座参加の人数が昨年より増加したことは良かったのですが、講座により定員を大きく超えて集まる講座がある一方で、規定人数に満たない講座もありました。今後も引き続きアンケート等により一層市民のニーズをとらえ、デジタルサイネージ、ホームページ、広報等により周知に努めてまいります。自然体験学習施設については、指定管理者と協議し、今後も幅広い層の方に利用していただけるよう周知をする必要があります。また、市民文化会館において、令和5年度の取組により、ホール環境の充実を図ることができたが、設置から26年以上経過し、老朽化が進んでいる機器設備が多いことから、今後も安定的に施設を運営していくために適切な改修や更新が必要であると考えます。
			2 図書館の「知の拠点」化	企業版ふるさと納税を活用し、昨年度より多くの図書を購入したことで、蔵書新鮮度を向上させることができました。	企業版ふるさと納税の活用により、蔵書新鮮度（蔵書がどれだけ新しくなった）が、令和4年度は3.48%だったものが、令和5年度においては4.04%まで向上しました。今後においては、企業版ふるさと納税に頼ることなく、蔵書新鮮度を向上させれるよう、より一層の工夫が必要です。
			3 スポーツ活動の充実	幼児から高齢者まで幅広い世代が気軽にスポーツを体験できる「スポーツフェスティバルin柏原」、日々のスポーツ活動の成果を発揮する「柏原シティキャンパスマラソン」を開催しました。また、市民を対象とした市民体育大会やスポーツ教室を開催しました。	スポーツイベントの参加者数は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の影響はなくなりましたが、「柏原シティキャンパスマラソン」の参加者数は少ないままで、参加者増加のための取組が必要と考えます。
			4 スポーツ環境の充実	管理人が常設するスポーツ施設のサービス向上、経費節減を図るため指定管理者による施設の運営を行いました。生涯にわたる学びとスポーツ活動の継続的な機会を提供するため恩智川（法善寺）多目的遊水地上面整備基本計画を策定しました。	管理人が常設するスポーツ施設は、指定管理者による施設の運営を継続し、利用者のサービス向上に努めます。恩智川（法善寺）多目的遊水地上面整備基本計画を基に基本設計をすすめ、多くの皆様にご利用いただける施設の整備を目指します。
			5 子どもの健全育成に向けた地域のつながりの充実	校区青少年健全育成会が実施する「地域ふれあい活動」において、健全育成活動に取り組みました。コロナ禍で希薄なところもあった地域のつながりを再構築し、参加者数は増加しています。また、児童・生徒の登下校時の見守りを行い、不審者などからの安全確保に努めました。	青少年健全育成会の活動により、「地域の子どもは地域で守り育てる」という気運が高まりました。また、青少年健全育成会間の意見交換会等の機会を設け連携を深めることが出来ました。課題としては、高齢化や共働き家庭の増加等の社会情勢の変化により、見守りや地域行事に協力できる人材のなり手不足が地域によっては出てきています。
	国際交流	外国人が不便や不安を感じることなく暮らし、交流するまち	1 外国人向けの情報提供の充実	国際交流に関心のある市民に対し、日本文化ボランティアや語学ボランティア、ホームステイ・ホームビジットボランティアのボランティア登録を推進し、ボランティアの活動支援を行いました。令和5年度末現在 登録ボランティア数：語学18人、日本文化11人、ホームビジット35人 合計58人（重複登録含む）	ボランティア名簿が更新されておらず、現在もボランティア参加の意思があるのか、柏原市内に在住されているのかといった情報が不明確であり、リストの整備が求められます。外国人向けの情報発信については、市政の各種情報をリアルタイムで外国語で伝えることができるような語学スキルをもつ人材がいらないこと、にぎわい観光課単独でそういった情報の発信を行うことは限界があることが課題であると考えます。
			2 国際交流機会の増加	市内在住・在学の外国人留学生や日本人学生に向けて、ぶどう狩りの体験や日本遺産に触れていただき、柏原の地場産品である注染の手ぬぐいを使用した竹うらわ作りを体験するバスツアーを実施しました。また、市内在住、在勤、在学の日本人、外国人に向けて伝統文化体験「生け花」を実施しました。バスツアー参加者 20名 生け花参加者 外国人留学生4名を含む12名	ぶどう狩りや生け花の体験を通じて外国籍住民や留学生が日本文化に触れる機会を提供することができました。今後も同様な企画によって交流機会の増加を図りたいと考えます。
	人権・男女共同参画	一人ひとりの人権が守られ、いきいき暮らせるまち	1 人権尊重意識の向上	柏原市人権行政基本方針及び人権行政推進プランに沿って事業を行い、8月には柏原市平和展を開催し、12月にはLGBTQ等の性的マイノリティの方をはじめ、インターネットによる誹謗中傷を受けた方等を対象とした休日特設相談を実施しました。	啓発活動や平日に相談することが難しい方に向けて休日特設相談を行うなど、今後も市民に寄り添った相談体制の充実や啓発活動を行っていく必要があると考えています。
			2 男女共同参画社会の実現	6月にかしわら男女共同参画フォーラムを開催しました。また、男女共同参画センターにおいて、男女共同参画の視点に立った各種講座を開催しました。	多様なテーマに応じた講師を依頼し、男女共同参画社会の推進について啓発を行いました。今後も多様な性別や年代の方に受講してもらえるような講座の計画が必要となります。
	コミュニティ	地域コミュニティ意識が醸成されているまち	1 コミュニティ活動への継続的な支援	市内の全115町会に町会活動推進補助金の案内を行い、町会からの申請を受け付けました。また、広報誌、市ウェブサイトを通じて当該保険を周知し、団体からの登録を受けました。	町会活動推進補助金では、町会活動の支援を実施できており、今後も活用してもらえよう周知を行っていきます。また、住民活動災害補償保険では加入団体数が微増していることから、これからもより多くの活動団体に加入してもらえよう、引き続き周知を図っていく必要があります。
			2 コミュニティ活動拠点の適切な管理	コミュニティ会館については、広報誌、市ウェブサイトを通じて新たに整備したWi-Fi設備を周知し、利用件数の増加を図りました。また、市民プラザについても、広報誌、専用ウェブサイトを通じて自主事業やWi-Fi設備を周知し、利用件数の増加を図りました。	コミュニティ会館では、コロナ禍によって減少していた利用件数が増加傾向となりました。今後も地域コミュニティを支援し、地域活動の場として活用されるよう、アフターコロナを見据えた利用促進の周知や、それにつながる取組が必要であると考えています。また、市民プラザも同様に周知を行っていく必要があります。

目 標	分 野	ビジョン	達成目標	令和5(2023)年度の取組結果	令和5(2023)年度の取組に対する評価と今後の課題
目標5 みんなでつくる暮らし続けられるまち	市政運営	細やかな行政サービスと情報発信が充実しているまち	1 窓口サービス等の充実	コンビニ交付の利用率が、令和5年度は37.4%でした。またおくやみコーナーは、365件の利用がありました。マイナンバーカードや運転免許証から住所・氏名・生年月日等を読み取り窓口での申請書作成を支援する「書かない窓口」について、情報収集、研究を行いました。	コンビニ交付の利用率に関しては、令和4年度に比べて令和5年度は11.1ポイント増加しました。今後ともさらなる普及につとめるとともに、コンビニ交付の利用率を増加させ、おくやみコーナーも引き続き安定した利用件数を維持していく必要があると考えています。来庁予約やイベントの参加申込における電子申請ツールの活用が定着しつつあり、本市のデジタル化を牽引する基盤になり得ると考えます。今後はオンライン決済や個人認証の機能を導入するなど、オンライン申請をさらに拡大できるよう検討を進めます。
			2 広報広聴活動の充実	広報誌、ウェブサイト、フェイスブックなどの他、市公式LINEをリニューアルし、市政情報、市の魅力発信の充実を図りました。	市公式LINEの友だち登録を増やすことができました。今後、より多くの方に柏原市のことを知ってもらうため、広報誌、ウェブサイト、SNSを連動させた情報発信を強化し、更なる充実を図る必要があります。
	行財政運営	『持続可能な』行財政運営が構築されているまち	1 公共施設のあり方の検討	公共施設等の再編整備基本計画を令和5年10月に策定しました。	様々な課題を整理・検討し、本計画を策定しました。本計画に基づき公共施設の合理化を進めますが、新たな課題等があれば適宜整理・検討する必要があります。
			2 業務の効率化	RPAやAIを活用した業務の効率化に向けて情報収集に努めるとともに、大阪府及び府内市町村とも意見交換を行いました。また、チャットツール及び電子申請ツールの利用拡大についても、他の自治体における活用事例等の研究を進めました。	RPAやAIについては更なる情報収集、研究の継続や積極的な情報交換を進め、導入効果の最大化を図る必要があります。また、ICT技術を利用して業務の効率化を図る際には、業務全体のフローを見直すなどBPRの考え方をもとに検討を進めてまいります。
			3 公民連携の拡充	大阪教育大学との連携事業を継続実施したほか、オーディオブックの配信サービス会社である株式会社オトバンクと包括連携協定を締結し、オーディオブックを活用した取組を開始しました。	大学連携だけでなく民間連携についても充実した事業が増えてきていると考えています。今後も充実した取組が実施できるよう継続する必要があります。
			4 クラウドサービスの導入	現行のシステムと標準準拠システムとの差異を洗い出し、各業務の課題を抽出するためのFit&Gap分析を行いました。	Fit&Gap分析により顕在化した課題を解決するために、どのようなアプローチが有効かを限られた期間内に検討する必要があります。今後は国の動向に注視しながら、標準準拠システムへの移行を進めるとともに、ガバメントクラウド上で提供される自治体DXaaSの導入についても情報収集、研究を行ってまいります。
			5 組織の活性化と職員体制の強化	新規職員採用試験の募集方法はウェブでの受験申込、1次試験の録画動画面接及びテストセンター方式での試験を継続して行い、より人物重視で人材を確保できるよう取り組みました。	採用試験の1次試験に録画動画面接を継続して実施したことにより、人物重視の採用に一定の効果があったと考えていることから、今後も実施していくとともに、引き続き採用試験の実施方法の検討を行う必要があると考えています。
			6 市民ニーズに柔軟に対応できる財政構造の維持	令和6年度予算編成に当たり、令和4年度決算及び令和5年度予算における執行状況等を踏まえて精査し、歳出予算額の抑制を図りました。	令和6年度予算は、予算額の抑制に向けた取組を行いました。社会保障関連経費の増加が続いていることや人事院勧告に伴う人件費の増加などにより、財政調整基金の取崩し額が前年度を上回る10億円となりました。また、令和7年度以降においても社会保障関連経費の増加が見込まれる中で、公共施設の維持管理費や施設更新等に伴う工事請負費の増加や財源として発行する市債の償還に係る公債費の増加も見込まれるため、経常経費を含めた歳出の削減と一般財源となる歳入の確保に向けた取組が課題であると考えています。
			7 サイバーセキュリティの強化	「地方公共団体における情報セキュリティに関するガイドライン」が見直されたことを受け、情報セキュリティポリシーを改定しました。また、情報セキュリティ研修及び情報セキュリティ監査（内部）を実施しました。	情報通信技術の発展に伴い、情報セキュリティ対策も常に更新を行う必要があります。しかしながら、情報セキュリティ対策は組織全体であらなければ効果が薄く、情報セキュリティポリシーの改定についても職員一人ひとりにどのように周知するかが課題となっています。
	協働・市政参加	市民と行政が連携しているまち	1 市政参加への環境づくり	市ウェブサイトを通じて周知啓発を図るとともに、各課に対し新たな講座メニューの検討を依頼しました。	コロナも明け、各団体の利用が増えたことで目標値を超えることが出来ました。今後も市ウェブサイトや広報誌を通じて出前講座の周知を図るなど、より多くの方へ利用してもらえる取組が必要だと考えています。
			2 協働によるまちづくり	庁内LANを通じて審議会等所管課に対し、市民公募委員の積極的な登用を依頼しました。	市民公募委員の登用を進めている会議は前年度から減少しています。今後も積極的な市民公募委員の登用を審議会等所管課へ呼びかける必要があります。
			3 SDGsに関する取組の充実	河川空間のオープン化をはじめ、新規で実施するイベントについてはSDGsを取り入れるなど、周知・啓発に努めました。	各事業においてSDGsを意識した取組を進めるため、今後も継続的に周知・啓発を進める必要があると考えています。

目 標	分 野	ビジョン	達成目標	成果指標	単位	2019	2025	2020の 状況	2021の 状況	2022の 状況	2023の 状況
目標 1	防災	災害に強く協働と支え合いによる防災体制が充実したまち	1 緊急交通路の整備推進	緊急交通路となる道路の整備延長	m	—	584	210	210	440	440
				緊急交通路における耐震化された橋梁数	橋	0/5	1/5	0	0	0	0
			2 建築物の耐震化促進	民間木造住宅の耐震補助制度利用件数	件	36	300	81	123	154	186
			3 浸水被害の防止	浸水戸数（床上・床下）	戸／年	0	0	0	0	0	0
			4 危機管理体制の強化	関係団体との災害応援協定締結数	件	55	80	62	69	75	78
			5 地域防災力の強化	自主防災組織の訓練実施率	%	57	70	0	0	22	48
				消防団員数	人	129	140	129	129	122	117
	防犯	市民を守る安全で安心なまち	1 防犯対策の強化	街頭における犯罪認知件数	件／年	135	70	109	84	181	146
			2 消費者保護体制の強化	消費生活相談の実施回数	回／週	4	5	4	4	4	4
	交通安全	交通事故のないまち	1 交通安全対策の強化	市内の交通事故発生件数	件／年	234	172	200	129	159	126
			2 通学路の整備推進	通学路における交通事故発生件数	件／年	1	0	0	0	0	0
	医療・保健	良質な地域医療と保健体制が確保されているまち	1 市立柏原病院の医療提供体制の充実	平均入院患者数	人／日	172	187	137	121	111	133
				平均外来患者数	人／日	395	420	354	376	373	373
			2 市立柏原病院の救急医療体制の強化	救急搬送受入件数	件／年	1,504	1,560	1,244	1,377	1,549	1,871
			3 市立柏原病院の地域ニーズに対応できる入院体制の強化	緩和ケア病棟入院患者数	人／年	5,243	7,136	5,642	6,769	6,420	6,726
				地域包括ケア病棟入院患者数	人／年	12,919	13,651	8,141	0	0	6,567
			4 定期接種の啓発等を通じた感染症のまん延防止	A類定期接種の平均接種率	%	76.3	86.0	92.0	85.3	82.0	86.9
				高齢者インフルエンザワクチンの接種率	%	50.3	60.0	72.3	55.7	69.2	56.6
	健康づくり	生涯を通じて心身が健康で元気に暮らせるまち	1 疾病予防、重症化予防の推進	特定健康診査受診率	%	40.5	60.0	37.4	38.4	40.5	41.4
				胃がん検診受診率	%	6.7	10.0	3.2	3.2	3.4	4.6
				大腸がん検診受診率	%	9.7	12.0	5.0	5.8	6.0	5.3
				肺がん検診受診率	%	5.1	8.0	2.6	3.0	3.0	3.2
				乳がん検診受診率	%	25.2	30.0	14.6	14.8	15.5	21.8
				子宮頸がん検診受診率	%	26.6	30.0	15.2	15.3	15.2	19.2
			2 主体的な健康づくり活動の充実	セレクト・ウェルネス柏原への参加者数	人／年	3,383	5,000	2,260	2,018	3,175	2,830
			3 自殺防止体制の強化	ゲートキーパー養成講座の修了者数	人	364	600	412	450	477	509
	地域福祉	「地域共生社会」を実現するまち	1 地域福祉への主体的な住民参加	地域福祉活動推進事業のグループ活動参加者数（延べ）	人	12,983	12,000以上	1,287	1,820	3,462	6,507
			2 生活困窮者の自立に向けた着実な支援	支援会議の開催回数	回／年	12	12	12	12	12	12
				生活困窮者自立支援プラン作成率（新規相談に対する）	%	47.39	50以上	28.69	31.87	21.54	23.71
				生活困窮者就労支援率（プラン作成件数に対する）	%	66.97	60以上	44.77	44.20	59.55	78.18

目 標	分 野	ビジョン	達成目標	成果指標	単位	2019	2025	2020の 状況	2021の 状況	2022の 状況	2023の 状況
	子育て支援	誰もが安心して笑顔で子どもを産み育てられるまち	1 妊娠期から子育て期における切れ目ない支援の充実	妊婦への相談支援件数	件／年	793	900	976	996	1,152	1,721
				こんにちは赤ちゃん訪問率	%	97.8	100	97	97.1	97.8	99.2
				養育家庭訪問（すくすく訪問）による訪問率	%	78.4	100	80.5	80.5	87.3	98.0
			2 母子保健の充実	乳幼児健診の受診率（4か月児）	%	98.3	100	98	99.8	99.5	99.0
				乳幼児健診の受診率（1歳6か月児）	%	98.3	100	97	96.9	97.9	97.3
				乳幼児歯科検診の受診率（2歳6か月児）	%	87.9	100	91	88.2	87.8	87.2
				乳幼児健診の受診率（3歳6か月児）	%	93.1	100	97	94.9	95.9	94.5
				両親教室の参加者数（母親・父親延人数）	人／年	127	180	100	74	141	167
			3 幼児期の教育・保育環境の充実	幼保再編整備による市立認定こども園数	園	—	6	4	4	4	4
			4 子育て中でも安心して働ける環境の充実	保育施設の待機児童数	人	0	0	0	0	0	0
				放課後児童会に希望どおり入会できた児童の割合	%	100	100	99.4	100.0	100.0	100.0
			5 配慮が必要な子どもと子育て家庭への支援の充実	養育支援訪問事業による訪問件数	件／年	19	19以下	16	83	66	73
				児童虐待相談件数	件／年	102	102以下	115	85	115	152
	障害者福祉	インクルーシブな社会が実現したまち	1 障害のある子どもへのライフステージに応じた切れ目ない支援の強化	ペアレントプログラム・ペアレントトレーニングの受講者数	人／年	—	10	—	—	13	7
				障害児に係る福祉サービス等利用計画の作成件数	件／年	146	210	138	254	277	304
			2 地域での自立した生活に向けた支援の充実	障害者に係る福祉サービス等利用計画等の作成件数（延べ）	件	615	680	640	653	674	682
				入所施設や精神科病院からの退所者数（地域移行者数）	人／年	2	2以上	1	1	0	1
			3 就労や社会参加活動への支援の充実	大阪府障害者スポーツ大会への参加者数	人／年	10	10以上	0	0	3	1
				福祉施設から一般就労への移行者数	人／年	19	26	19	4	4	1
			4 安全・安心な生活環境づくりの促進	住宅改造（バリアフリー）助成件数	件／年	4	4	2	4	3	1
				避難行動要支援者名簿登録率	%	100	100	100	100	100	100
			5 障害を理由とする差別の解消及び権利擁護の強化	成年後見制度における相談件数	件／年	15	27	延べ18	5	6	6
				障害者虐待件数（過去3箇年累計）	件	3	0	3	1	2	1
	高齢者福祉	高齢者が生きがいを持って安心して暮らせるまち	1 介護予防活動の充実	百歳体操を含む介護予防活動の通いの場の参加者数	人／年	760	950	541	309	414	370
			2 認知症になっても安心して生活ができる環境の充実	認知症サポーター養成講座の修了者数	人	4,736	8,000	4,881	5,188	5,311	5,446
			3 介護保険サービスの適切な運営	要介護認定者数に占める介護保険サービス未利用者の割合	%	18.3	18.3未満	16	13	15	22.7

目 標	分 野	ビジョン	達成目標	成果指標	単位	2019	2025	2020の 状況	2021の 状況	2022の 状況	2023の 状況
目標 2 地域資源を活かした魅力あふれるまち	自然環境	市民が憩い親しめる水と緑の良好な自然環境のまち	1 水質改善への継続的な取組	環境フェア開催回数	回／年	1	1	0	0	1	1
				水辺の自然教室開催回数	回／年	1	1	0	0	0	1
			2 市民が親しめる水辺環境の保全	クリーンキャンペーン開催回数	回／年	2	2	0	0	2	3
			3 豊かな自然を感じる場の保全	高尾山創造の森の清掃・草刈回数	回／年	24	24	24	24	24	24
			4 土地利用に関する適切な指導	無許可埋立て行為件数	件／年	0	0	0	1	0	0
				埋立て土砂による水質汚染・土壌汚染件数	件／年	0	0	0	0	0	0
			5 森林環境の整備	市内森林の現状把握及び危険箇所や荒廃林の整備箇所数	箇所	1	2	1	2	1	1
	生活環境	資源の循環利用が進み良好な生活環境のまち	1 ごみの減量化及びリサイクル活動の充実	マイバッグキャンペーンの実施	回／年	1	2	1	1	1	1
				リサイクル促進団体登録数	団体	48	60	50	51	51	52
				市民一人1日当たりのごみ排出量	g／人・日	625	592	632	619	598	583
			2 不法投棄の防止	不法投棄件数（過去5年平均）	件	69	65	42	35	40	18
			3 周囲に悪影響を与える管理不全空き家の減少	管理不全が解消された空き家の戸数	戸	11	60	18	33	52	84
	環境保全	市民とともに良好で快適な環境を保全しているまち	1 公害防止対策の継続的な取組	大気汚染に係る監視測定項目数	項目	3	3	3	3	3	3
			2 温室効果ガスの削減	環境負荷の少ないエネルギー利用の啓発活動回数	回／年	4	5	2	2	4	4
			3 環境教育の充実	市内小学校での環境教育の実施回数	回／年	4	5	3	3	7	3
			4 地域における環境美化の強化	地域清掃回数	回／年	233	260	211	210	298	362
				環境美化推進員の人数	人	108	108以上	108	107	109	107
	農業	担い手が育成され、特色ある農業が盛んなまち	1 地域農業の活性化	ぶどうを始めとした農産物、加工品のPR販売回数	回／年	9	10	0	0	4	4
				大阪エコ農産物認証制度の取得件数	件	30	35	27	27	27	23
			2 農地の保全と遊休地の活用	農地の賃借権数	件／年	2	2以上	4	2	6	1
			3 有害鳥獣被害の減少	イノシシ・アライグマ・カラスの駆除数	匹・羽／年	663	600	807	589	372	319
				イノシシ侵入防止柵の設置件数	件／年	16	15	14	12	10	7
			4 農業後継者の確保	新規就農者・農業後継者の就農者数	人／年	1	1	3	2	3	5
				ぶどう担い手塾の開講回数	回／年	12	12	6	10	45	24
	商工業	元気な商工業で、にぎわいあふれるまち	1 市内事業所等の活性化	柏原・まち・ひと・しごとnetの登録件数	件	555	600	534	535	535	533
				新規出店促進事業による出店件数	件／年	3	5	0	0	3	3
				創業相談を活用した創業者数	人／年	22	25	12	24	35	31
			2 商店街等の集客力向上	空き店舗と事業者のマッチング件数	件／年	－	5	0	0	0	0

目 標	分 野	ビジョン	達成目標	成果指標	単位	2019	2025	2020の 状況	2021の 状況	2022の 状況	2023の 状況
	観光	地域資源を活かした観光による活気とにぎわいのあるまち	1 交流人口・関係人口の増加とおもてなし環境の整備	観光入込客数【ＪＲ・近鉄の１日平均利用者数（定期外）】	人	10,962	11,100	10,637	8,110	9,316	9,651
				観光拠点の整備箇所数	箇所	－	1	0	0	0	0
			2 観光資源に関する情報発信の充実	情報発信の媒体数	種類	5	10	5	6	11	12
			3 広域的な地域魅力の向上	観光振興強化に関する連携市町数	団体	5	10	23	23	23	23
	歴史・文化	歴史・文化の保全と活用による魅力あるまち	1 文化財の保存、整備、活用	市指定文化財の指定件数	件	19	30	19	19	19	19
				国指定史跡鳥坂寺跡の公有地化率	%	23	100	23	23	23	23
目標 3	土地利用	計画的な土地利用による利便性が高く良好な住環境のまち	1 都市計画による適切な土地利用	都市計画審議会の審議件数	件	42	54	46	47	48	50
			2 開発者との協議による良好な住環境の形成	事前協議の協議成立割合	%	100	100	100	100	100	100.0
	公園・緑地	市民との協働による緑あふれる自然環境のまち	1 緑あふれる公園、緑地の維持、整備	遊具の更新箇所数	箇所	0	10	0	7	9	9
				公園・緑地の巡視及び遊具点検回数	回／年	12	18	12	12	12	12
			2 市民協働による緑化活動の推進	花苗を配布する地域団体数	団体	26	32	26	27	34	33
				市民団体等との緑地公園の維持管理等に関する協定等締結数	団体	10	15	10	11	11	11
			3 災害に備えた公園の利活用	防災ファニチャーを設置している公園数	箇所	1	5	1	1	1	1
	上水道	安心な水を安定して使えるまち	1 水道システムの強靱化	全管路の耐震適合率	%	41.7	49.2	43.6	44.6	45.7	46.9
			2 安定的な事業運営	有収率	%	94.4	94.4	93.7	93.4	93.3	93.3
	下水道	衛生的で快適な生活環境が確保されているまち	1 生活排水の適正な処理	公共下水道整備（汚水）の人口普及率	%	87.5	89.6	87.9	88.2	88.4	88.9
				市町村設置型の公共浄化槽設置基数	基	84	116	91	93	97	100
	道路	快適で利便性・安全性の高い道路が整備されているまち	1 快適な道路の整備	交通バリアフリー化整備率	%	79.8	81.9	81.5	81.5	81.5	81.5
			2 幹線道路ネットワークの整備	都市計画道路の整備率	%	21	25	22	22	23	23
			3 道路施設等の適切な維持管理	破損箇所等の補修件数	件／年	122	152	143	138	123	131
			4 市民協働による道路美化活動の推進	地区清掃などへの参加地区数	地区／年	17	23	18	17	19	22
	公共交通	広く市民が利用可能な公共交通ネットワークのあるまち	1 市民生活を支える公共交通システムの構築	地域公共交通の利用者数	人／年	－	3,650	－	－	－	－
			2 市内循環バスの効果的な運行	市内循環バスの利用者数	人／年	224,855	236,000	158,522	163,986	185,605	187,697
			3 鉄道駅のバリアフリー化	バリアフリー化した鉄道駅数	駅	6	8	6	6	8	8

目 標	分 野	ビジョン	達成目標	成果指標	単位	2019	2025	2020の 状況	2021の 状況	2022の 状況	2023の 状況
目標 4	学校教育	「生きる力」を持った子どもが育成されるまち	1 幼小中一貫教育の実施	生活アンケート「学校生活は楽しいですか」に「楽しい」と答えた割合（小学校一年生）	%	97	98	97	96	96	96
				生活アンケート「学校生活は楽しいですか」に「楽しい」と答えた割合（中学校一年生）	%	73	78	77	74	78	82
			2 学力・体力の向上	全国学力・学習状況調査平均正答率の対全国比	%	98	100	未実施	96	100	96
				全国体力・運動能力、運動習慣調査所定種目の対全国比	%	98	100	未実施	97	97	99
			3 教育支援の充実	生活アンケート「学校の中に相談できる大人がいますか」に「いる」と答えた割合	%	58	65	63	66	67	69
			4 適正規模・適正配置の検討	適正規模・適正配置審議会の開催回数	回／年	13	13	0	4	0	0
				地域説明会・地域懇談会の開催回数	回／年	10	10	0	0	0	0
			5 経済的事情により困窮している児童、生徒への適切な支援								
			6 快適な教育環境の整備	トイレ内の便器洋式化率	%	22.3	100	30	47	53	61
				学校体育館の空調設備設置数	校	－	6	0	2	4	6
	生涯学習	生涯に渡る学びの機会があり、やさしさや思いやりを育むまち	1 多様な学びの機会の充実	公民館の講座数	件／年	30	40	30	26	26	33
				公民館の講座受講者数	人／年	365	600	230	226	273	312
				自然体験学習施設での事業回数	回／年	38	45	38	40	46	38
				市民文化会館の稼働率	%	65.6	70.0	35.2	46.5	48.4	60.9
			2 図書館の「知の拠点」化	図書貸出冊数	冊／年	380,786	410,000	312,793	320,109	346,009	331,433
				利用者数	人／年	105,754	120,000	85,695	87,811	96,890	97,835
			3 スポーツ活動の充実	スポーツ行事の参加者数（延べ）	人／年	4,500	5,100	0	0	6,916	11,545
				ニューススポーツ用具の貸出回数	回／年	180	200	10	7	15	26
			4 スポーツ環境の充実	市内施設の利用者数（延べ）	人	410,800	501,300	297,500	291,874	250,738	246,331
			5 子どもの健全育成に向けた地域のつながりの充実	地域ふれあい活動事業（フェスタ）への参加者数	人／年	7,686	8,000	1,111	1,134	3,521	4,525
				子どもの安全見守り隊の人数	人	766	800	744	725	725	573
	国際交流	外国人が不便や不安を感じることなく暮らし、交流するまち	1 外国人向けの情報提供の充実	外国語による案内や情報発信の件数	件	－	5	0	1	2	2
			2 国際交流機会の増加	国際交流機会の開催回数	回	2	4	0	1	1	2
	人権・男女共同参画	一人ひとりの人権が守られ、いきいき暮らせるまち	1 人権尊重意識の向上	臨時相談窓口の開設回数	回／年	3	5	2	4	2	2
			2 男女共同参画社会の実現	講座受講者数	人／年	503	600	171	333	377	427
	コミュニティ	地域コミュニティ意識が醸成されているまち	1 コミュニティ活動への継続的な支援	町会活動推進補助金交付団体数	団体	110	115	104	103	108	107
				住民活動災害補償保険登録団体数	団体	126	140	122	122	114	119
			2 コミュニティ活動拠点の適切な管理	コミュニティ会館利用件数	件／年	1,032	1,500	456	542	768	896
				市民プラザ利用件数	件／年	1,674	2,000	1,353	1,381	1,633	1,629

目 標	分 野	ビジョン	達成目標	成果指標	単位	2019	2025	2020の 状況	2021の 状況	2022の 状況	2023の 状況
目標 5 みんな でつくる 暮らし 続けら れるまち	市政運営	細やかな行政サービスと情報発信が充実しているまち	1 窓口サービス等の充実	新たな窓口サービスの導入件数（累計）	件	—	2	0	1	2	2
				新たな電子申請サービスの導入件数（累計）	件	3	6	3	3	5	5
				証明書発行におけるコンビニ交付の利用率	%	4.3	10.0	8.6	17.0	26.3	37.4
			2 広報広聴活動の充実	ウェブサイトの閲覧件数（月平均）	件	17,948	30,000	40,166	33,133	20,817	21,130
	行財政運営	『持続可能な』行財政運営が構築されているまち	1 公共施設のあり方の検討	個別施設計画に基づく公共施設の合理化件数	件	—	3	0	0	0	0
			2 業務の効率化	I C T技術を利用して効率化した業務件数	件	—	2	0	2	3	3
			3 公民連携の拡充	大学連携事業数	事業／年	101	110	101	106	122	145
				民間企業との事業連携協定締結数	件	147	160	152	221	229	246
			4 クラウドサービスの導入	標準化した情報システムの数	システム	—	5	0	0	0	0
			5 組織の活性化と職員体制の強化	課長級以上に占める女性職員の割合	%	5.4	7.0	5.6	7.1	9.7	13.3
			6 市民ニーズに柔軟に対応できる財政構造の維持	経常収支比率	%	95.5	95.0未満	94.3	91.4	96.1	98.4
				標準財政規模に対する財政調整基金の割合	%	15.1	10.0以上	13.5	14.3	18.3	17.5
			7 サイバーセキュリティの強化	大阪版セキュリティクラウドの機能強化数	機能	—	3	0	0	1	1
				情報セキュリティポリシーの改定箇所数	箇所	—	8	0	8	14	24
	協働・市政参加	市民と行政が連携しているまち	1 市政参加への環境づくり	まちづくり出前講座実施件数	件／年	44	75	14	26	30	89
			2 協働によるまちづくり	審議会等における市民公募委員比率	%	13.7	20.0	15.1	15.1	14.5	14.2
			3 S D G s に関する取組の充実								